

論文

フィンランドにおける病弱特別学校 ーヘルシンキ市 Zacharias Topelius 学校および Sophie Mannerheimin 学校の取り組みに注目してー

Special Schools for Children with Sickness in Finland
; Focusing on the Practice at the Zacharias Topelius School and the Sophie Mannerheimin School in
Helsinki

是永 かな子(高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門・高知ギルバーク発達神経精神医学センター)
石田 祥代(千葉大学教育学部)

KORENAGA Kanako¹ and ISHIDA Sachiyo²

1 Kochi University Research and Education Faculty Humanities and Social Science Cluster Education Unit, Kochi

Gillberg Neuropsychiatry Centre

2 Faculty of Education, Chiba University

ABSTRACT

The aim of this paper was to identify the actual situation of special schools for children with sickness in Finland. Study methods were survey research and literature analysis. The results were as follows. First, special schools for children with sickness maintained their function as temporary 'transition support', providing small-group instruction for children who could not attend in-hospital education or community schools. No transfer procedures were required or they continued to complete the curriculum of the school they were attending before to hospital admission. In other words, the aim is to 'return to the local school' as far as possible. At the same time, special schools also provided community support. Secondly, special schools for children with sickness are identified as eligible for tertiary support and are guaranteed individualized learning methods, learning content and specialized support on the basis of an individual learning plan. In the case of serious illness, they are also eligible for an extension of compulsory education. From the perspective of promoting inclusive education, Finland's special schools for children with sickness, which seek to simultaneously pursue regionalism and specialization, can be seen as an aid to considering the future of education for the special education for children with sickness.

I. 問題の所在

フィンランドでは、2010 年基礎教育法改定(Laki perusopetuslain muuttamisesta)で三段階支援が規定され、その内容がナショナル・コア・カリキュラム(Perusopetuksen opetussuunnitelman perusteet)に反映されてインクルーシブ教育システムが整備された。三段階支援のうち、第一段階支援は「一般的な教育的支援(Yleinen tuki)」に相当し、一時的に学習に遅れがみられる子どもに対する短期間の支援や学習において問題を抱えている子どもに対する支援である¹⁾。第二段階は「強化支援(Tehostettu tuki/Tehostettua tukea)」に相当し、学習において継続的な支援を必要とする子どもに提供されるものであり、追加的指導や取り出しによる小集団ないし個別の指導が含まれる。第二段階は、第一段階の指導では十分でない場合に行われるものであり、2020 年には初等教育において第二段階支援を受けている子どもの割合は 12.3%、前期中等教育において第二段階支援を受けている子どもの割合は 12.5%である²⁾。

そして、第三段階は「特別支援(Erityinen tuki/Erityistä tukea)」に相当し、通常学校においては特別学級での授業、もしくは特別学校での授業を受ける場合が多い³⁾。様々な障害を含めて、フィンランドのナショナル・コア・カリキュラムを修了することが困難な場合は、教職員は個別学習計画(Henkilökohtainen Opetuksen Järjestämistä Koskeva Suunnitelma, HOJKS)に基づいて授業や活動を行う。2020 年に初等教育において第三段階支援を受けている子どもの割合は 8.4%、前期中等教育において第三段階支援を受けている子どもの割合は 10.3%であり、初等教育よりも前期中等教育の方が高くなる傾向にある⁴⁾。

とくに本稿で注目する病弱教育は、慢性疾患のみならず精神疾患対応も想定されており、子どもの状態に応じた第三段階支援が必要となる。

以上をふまえて本論文では、フィンランドにおける第三段階の特別支援としての病弱特別学校の取り組みに注目して、その実際を明らかにすることを目的とする。

II. 方法

本研究では調査研究と文献研究の方法論を用いる。分析する学校は首都ヘルシンキ市(Helsingin kaupunki)にある Zacharias Topelius 学校(以下、ザカリアストペリウス学校)および Sophie Mannerheimin 学校(以下、ソフィエマンネルヘイミン学校)である。ヘルシンキ市の 2020 年 12 月 31 日の人口は 656,920 人、面積は 715.48 km²である⁵⁾。

2019 年 9 月 17 日および 2022 年 9 月 19 日にヘルシンキ市において現地調査を行い、関連先行研究等を分析した。ザカリアストペリウス学校には 2010 年 3 月、2016 年 8 月、2018 年 10 月、2019 年 3 月にも訪問している。2019

年 9 月及び 2022 年 9 月のヘルシンキ市訪問では学校長に対する聞き取りや調査時に提供された資料を中心に検討した。ソフィエマンネルヘイミン学校は、2019 年 9 月に本校の学習成果発表会および学校開放日に参加し、子どもの合唱や動画による学校紹介を参観するとともに校舎内を見学した。その上で、公式 Web サイトの情報等も参考にしてカリキュラム内容の特徴を検討した。他にも自治体公開資料や関連先行研究等も参照した。

写真撮影の際には随時撮影の許諾を得た。倫理的配慮に関しては、聞き取りを実施した研究協力者と学校に対して、研究の目的と聞き取り調査の意図、質問項目を英語の文書で提示し、了承を得られた項目のみを回答してもらった。

III. 結果

1. ザカリアストペリウス学校

1.1 ザカリアストペリウス学校概要

ヘルシンキ市 Tölö 地域のザカリアストペリウス学校はフィンランドにおけるスウェーデン語話者のためにスウェーデン語で教育を行う公立学校⁶⁾であり、「全ての者の学校(En Skola för Alla)」を目指している。ザカリアストペリウス学校はアイナユニット(AINA-enheten)、トイニユニット(TOINI-enheten)、エバユニット(EVA-enheten)の 3 ユニットで構成され、全体で約 160 人の子どもが学ぶ⁷⁾。アイナユニットは 1-6 年の子どもを対象に通常教育を保障する。トイニユニットは知的障害や自閉症のある子どもを対象に小集団を編成して特別教育を保障する。トイニユニットの子どもはザカリアストペリウス学校で就学前教育を含めて 11 年間の教育が保障されている⁸⁾。

本研究では病弱教育(Sjukhusskolan)を行うエバユニットに注目する。エバユニットは 2013 年 8 月にウルフオーサ学校(Ulfåskolan)の病弱特別学校の機能をザカリアストペリウス学校に統合して、設置された。目的はより小規模の学校での教育を保障するため、であった⁹⁾。エバユニットには、2 つの活動形態がある。1 つは、病院に通院する子どもや入院している子ども、様々な理由で地域の学校に通えない子どもを対象とした小集団のスウェーデン語による「病院内教育」である。病院で教育を受けているのは、入院している 1 年から 9 年の義務教育学校段階の子どもである。子どもが通っていた地域の学校と相談しながら、エバユニットの教員が子どもに 1 日 1 時間の指導を保障する。他の職員としてはセラピスト(terapi)などケア担当者(vårdkontakt)がいる^{10,11)}。病院で治療を受ける子どもの教育は、教育基本法(lagen om grundläggande utbildning)第 6 条と第 28 条により、まずは子どもの通学していた学校が主となって計画する¹²⁾。

入院治療が必要ない場合には、もう 1 つの活動形態とし

て、1年生から6年生は Stenbäcksgatan のザカリアストペリウス学校本校で授業を受ける。7年生から9年生は Mannerheimvägen にあるブルナカールの保健所 (Folkhälsanhuset i Brunakärr)¹³内の分校で授業を受けていたが¹⁴、2017年のヘルシンキ市の決定により、7年生から9年生の教育は Dagmarsgatan にあるフィンランド国内最大のスウェーデン語話者を対象とした社会教育機関 (medborgarinstitut) のヘルシンキアルビス (Helsingfors Arbis)¹⁵に移行することとなった¹⁶。

エバユニットの小集団指導に参加するのはさまざまな理由で地域の学校で教育を受けることができない子どもである。学習進度は子どものニーズに合わせて調整することができる。目標は、子どもが可能な限り地域の学校に戻ることである。エバユニットに登録された全ての子どもは、段階的支援の内第三段階の特別支援対象である¹⁷。

エバユニットの子ども数は時期によって変動するものの、2013年時点では、年間約100人の子どもが学んでいた。また子どもの地域の学校への移行支援も行われるが、2013年当時の子どもの変化として、社会的なプレッシャーから学校に行くことが困難な子どもがいることが指摘されていた。状態が改善されるには数か月から数年かかる子どももいるが、地域の学校に戻ることを目標として掲げている¹⁸。資料によると2019年10月の段階では病院に5人の子どもがいて、1人の教員が配置されていた。学校では1年から5年グループと6年から9年グループと分割されているが、合計13人の子どもが学んでいた¹⁹。

また2022年9月の段階ではエバユニットには1年から6年グループに6人、7年から9年グループに4人が学んでいた。担当教員は2人であった。エバユニットはフィンランド・ヘルシンキ市在住のスウェーデン語話者を対象としており、フィンランド語話者はソフィエマンネルヘイミン学校の対象になる²⁰。

エバユニットへの入学手続きは以下である。第一に、地域の学校がザカリアストペリウス学校の校長に連絡をする。第二に、子どもと保護者がエバユニットを訪問する。第三に、地域の学校が特別支援のための教育調査 (Pedagogisk utredning) を受けて、その結果と転校の妥当性が示される。第四に、教育長 (Utbildningsnheten) が第三段階の特別支援の対象になることとザカリアストペリウス学校エバユニットへの転校を決定する、である²¹。



写真1 ザカリアストペリウス学校外観(2019年3月訪問時撮影)

ザカリアストペリウス学校にはエバユニットの子どもを対象とした指導者 (elevhandledare) が配置されている。他にもザカリアストペリウス学校にはすべてのユニットに対応する特別教員 (speciallärare) が常駐する。他に巡回支援として学校心理士 (skolpsykolog)、学校社会福祉士 (skolkurator)、学校健康管理士 (skolhälsovårdare) の支援を活用できる²²。また病気は障害とともに義務教育を延長する要件にもなっているため、基礎教育で定められた目標が9年間で達成できないことが明らかな場合は、11年間の義務教育を申請できる^{23,24}。

以上のようにエバユニットでは、スウェーデン語での教育を希望する入院中の子どもに支援を行うのみならず、精神疾患も含めて地域の学校に通うことができない子どもの小集団指導の機能を担っていた。

2. ソフィエマンネルヘイミン学校

2.1 ソフィエマンネルヘイミン学校概要

ソフィエマンネルヘイミン学校は、病気の子どものための特別な学校の機能と病弱教育のための指導機能を担う学校である。学校には1年から9年まで設置されており、「すべての人に成長の場を! (kasvun paikka kaikille!)」保障することを目指している²⁵。

病弱教育では、ヘルシンキ・ウーシマー (Helsinki-Uusimaa)²⁶ 地域病院 HUS²⁷ とヘルシンキ大学が協力する、医療センター HYKS²⁸ と連携している。ソフィエマンネルヘイミン学校の対象は HYKS に入院したり、外来で HYKS を利用したりする子どもである。病院に入院している子どもが院内教育を受ける場合は、子どもは地域の学校に籍を置いたままでよい²⁹。

ソフィエマンネルヘイミン学校に在籍する子ども数は状況によって変動するが、平均140人から150人であり、資料によると2021年2月現在で108人の子どもが在籍していた³⁰。

ソフィエマンネルヘイミン学校は、Sibeliuksenkatu の本校、Välskärinkatu の分校、Stenbäckinkatu の分校、Sylvesterintie の分校の 4 つの場所に分かれている。公式 Web サイトには Sibeliuksenkatu の本校の建物の様子を紹介する動画が掲載されている³¹。今回の参観では写真 2 に示される Sibeliuksenkatu の本校を訪問した。窓が多く採光が容易なため明るく、室内の装飾も工夫されていた。



写真 2 学校の外観

ソフィエマンネルヘイミン学校内の装飾は、毎週芸術と音楽を取り入れているなど表現科目を重視していることとも関係があろう。表現科目は子どもの自尊心と自己肯定感を高め、成長を支援し、社交性やチームワーク力を養い、インクルージョンを推進することを目的としている、とのことである。子ども一人ひとりが自分の考えや作品を表現し、発表の仕方を練習できるよう支援し、さまざまな芸術・文化分野のゲストを招聘している³²。



写真 3 学校内の装飾



写真 4 学校内の装飾

ソフィエマンネルヘイミン学校には地域の学校をコンサルテーションする VETO 教員(VETO-opettajat)が配置されている。VETO 教員の仕事は、ヘルシンキ市および HUS の地域の学校の教職員を支援し、できるだけ多くの子どもが地域の学校に通学できるように、相談、研修、ガイダンスを提供することである³³。



写真 5 パソコンを用いる個別指導中心の環境設定

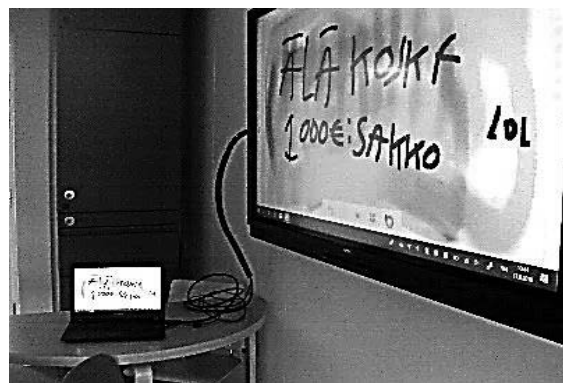


写真 6 ICT の活用

ソフィエマンネルヘイミン学校では、子どもは自分自身の学習プロセスに積極的に関与し、開放的で双方向的かつ安全な環境を作り上げる。開放性、双方向性、共同体精神は、さまざまな学習や交流の場面で実践されており、子どもは、これらのスキルを1対1の状況、小集団、大集団の授業で練習する機会がある³⁴。

例えば写真7や写真8のように共有スペースと教室がつながっていたり、写真11や写真12のように共有スペースの奥に個別の学習スペースが設置されていたりする。



写真7 共有スペースと教室ドア



写真8 共有スペースと個別スペース



写真9 教室のドア



写真10 集団指導を行う教室



写真11 集団教室内の個別支援



写真12 衝立で個別指導の場所を確保

病棟の子どもは、入院期間中も、自分の学校に戻ってからも、自分の地域の学校との協力体制が保たれており、原則として自分の地域の学校のカリキュラムに従って学習を進める。子どもが自分の地域の学校に戻るとき、あるいは新しい学校に移るときは、保護者、社会福祉当局、学校、各自自治体の教育当局が協力して移行を計画する。必要に応じて移行期には協議の場の設定や子どもが通う学校への訪問などの支援が行われる。そして子どもが後期中等教育へ移行する際にも、各教育機関との連携が確立されている、のである³⁵。

IV. 総合考察

本稿では、フィンランドにおける段階的支援の第三段階「特別支援」としての病弱特別学校の取り組みの実際を明らかにすることを目的とした。具体的には、現地の学校を訪問して聞き取りや参観を行う調査研究と訪問時提示資料、公式 Web サイトや関連文献を用いる文献研究の方法論を用いて、考察した。

本稿で明らかになったことは以下である。

第一に病弱特別学校では病院内教育や地域の学校に通えない子どもを対象とした小集団の指導を提供する、一時的な「移行支援」としての機能を維持しようとしていた。転校手続きが必要なかったり、病弱特別学校対象児はまずは入院前に就学していた学校のカリキュラムの履修を継続したりするなど、可能な限り「地域の学校に戻る」ことを目標としている方向性が明確であった。特別な学校の対象は慢性疾患のみならず、「社会的なプレッシャーで学校に行くことができない」など、精神疾患の子どもも想定されており、特別な学校就学期間も数か月から数年など多様である。第三段階支援としての特別支援対象ではあるが定期的な協議と専門家との連携によって、移行支援であることが

明示されていた。同時に特別な学校は地域支援の機能も有する。地域の学校が多様な子どもの教育保障をできるのであれば、子どもの移行支援はより容易になる。

第二に、病弱特別学校では支援ニーズが高い子どもには、徹底した個に応じる支援を保障する方向性も明確であった。病弱特別学校に就学する全ての子どもは第三段階支援対象と認定されており、個別学習計画に基づいて学習方法や学習内容が子どもに合わせて調整される。個別学習計画は、子ども、保護者、ケア担当者との定期的な協議と複数の専門家の協力を得て、子どもの健康状態を考慮しつつ、作成および評価されるなど、オーダーメイドの支援が具体化される。そして重篤な病気の場合は義務教育延長の対象となっていた。

インクルーシブ教育推進の観点からも、地域性と専門性を同時追求しようとするフィンランドの病弱特別学校のあり方は、今後の病弱教育を考える一助になるといえる。

謝辞

本研究は科研費(18K02793)(19H01698)の助成を受けたものである。

註・引用文献

- ¹ 小曾湧司,是永かな子(2019)フィンランドにおける通常学校における段階的支援の動向と実践 協働教授や移民支援の視点も包括して,高知大学学校教育研究,創刊号,1-9.
- ² フィンランド統計局, Liitetaulukko 1. Tehostettua tai erityistä tukea saaneet peruskoulun oppilaat 2020, https://tilastokeskus.fi/til/erop/2020/erop_2020_2021-06-08_tau_001_fi.html, (2021 年 12 月 29 日参照).
- ³ 小曾湧司,是永かな子(2017)フィンランド・ユバスキュラ市における特別な教育的ニーズに応じる段階的支援の実際. 発達障害支援システム学研究,16(1),9-15.
- ⁴ 前掲 2,フィンランド統計局.
- ⁵ フィンランド統計局, Tilastokeskus, https://www.stat.fi/tup/suoluk/suoluk_vaest_o.html, (2021 年 12 月 29 日参照).
- ⁶ 是永かな子(2019) フィンランド・ヘルシンキ自治体のスウェーデン語学校における段階的支援と幸福感を意識したインクルーシブ教育実践,高知大学教育学部研究報告,79,191-201.
- ⁷ ヘルシンキ市ザカリアストペリウス学校公式 Web サイト, Zacharias Topeliusskolan, <https://www.hel.fi/peruskoulut/sv/skolor/zacharias-topeliusskolan>(2021 年 12 月 29 日参照).
- ⁸ 同上,ヘルシンキ市ザカリアストペリウス学校カリキュラム公式 Web サイト.

- ⁹ Hem&skola, Published on Dec 2, 2013, https://issuu.com/tidningenhemochskola/docs/h_s_4_2013/16(2021 年 12 月 29 日参照).
- ¹⁰ 前掲 7,ヘルシンキ市ザカリアストペリウス学校カリキュラム公式 Web サイト.
- ¹¹ ヘルシンキ市ザカリアストペリウス学校訪問時提示資料, ザカリアストペリウス学校パンフレット, Zacharias Topeliusskolan, Zacharias Topeliusskolan brochyr.
- ¹² 前掲 7,ヘルシンキ市ザカリアストペリウス学校カリキュラム公式 Web サイト.
- ¹³ ブルナカール保健所, Folkhälsanhuset i Brunakärr 公式 Web サイト, <https://www.folkhalsan.fi/vara-hus/folkhalsanhuset-i-brunakarr/>(2021 年 12 月 29 日参照).
- ¹⁴ 前掲 11 ヘルシンキ市ザカリアストペリウス学校訪問時提示資料, ザカリアストペリウス学校パンフレット.
- ¹⁵ ヘルシンキ市 Arbis 公式 web サイト, Arbis, <https://www.hel.fi/arb/sv>(2021 年 12 月 29 日参照).
- ¹⁶ Helsingfors stad Protokoll 4/2017 1 (5) Svenska sektionen vid nämnden för fostran och utbildning, § 23 Placeringen av verksamheten i årskurserna 7-9 i Eväenheten vid Zacharias Topeliusskolan. HEL 2017-012017 T 12 01 01.
- ¹⁷ 前掲 11 ヘルシンキ市ザカリアストペリウス学校訪問時提示資料, ザカリアストペリウス学校パンフレット.

¹⁸ Jenny Bäck, En avgörande timme om dagen, HBL.fi, Publicerad: 30.11.2013, <http://gamla.hbl.fi/2013-11-29/535751/en-avgörande-timme-om-dagen> (2021年12月29日参照).

¹⁹ Mötesprotokoll Samarbetsmöte för svenskspråkiga aktörer inom krävande särskilt stöd 11.10.2019.

²⁰ 2022年9月19日エバユニット担当教員に対する聞き取りから.

²¹ 前掲11 ヘルシンキ市ザカリアストペリウス学校訪問時提示資料, ザカリアストペリウス学校パンフレット.

²² Mathilda Wrede-institutet Mellanrapport Frida Westerback Februari 2015 ”När det har brustit på många ställen i vuxenvärlden, i föräldraskapet, i skolvärlden, hos oss yrkesmänniskor” – professionellas perspektiv på unga i servicesystemet Bilaga 2 Infokarta.

²³ ヘルシンキ市ソフィエマンネルヘイミン学校公式 Web サイト, Sophie Mannerheimin koulu, <https://www.hel.fi/peruskoulut/fi/koulut/sophie-mannerheimin-koulu> (2021年12月29日参照).

²⁴ 前掲7, ヘルシンキ市ザカリアストペリウス学校カリキュラム公式 Web サイト.

²⁵ 前掲23, ヘルシンキ市ソフィエマンネルヘイミン学校公式 Web サイト.

²⁶ ヘルシンキ・ウーシマー地域は、フィンランドの南海岸に位置し、フィンランド全人口の約3分の1にあたる約

170万人の住民が暮らしている。フィンランドの首都ヘルシンキを含む26の自治体で構成されている。Helsinki-Uusimaa Region,

https://www.uudenmaanliitto.fi/en/helsinki-uusimaa_region (2021年12月29日参照).

²⁷ Hospital District of Helsinki and Uusimaa (HUS)

<https://hyksinstituutti.fi/clinical-research-institute-huch/?lang=en>, HUS, <https://www.hus.fi/en/about-us> (2021年12月29日参照).

²⁸ HYKS-instituutti, <https://hyksinstituutti.fi/> (2021年12月29日参照).

²⁹ 前掲23, ヘルシンキ市ソフィエマンネルヘイミン学校公式 Web サイト.

³⁰ 前掲23, ヘルシンキ市ソフィエマンネルヘイミン学校公式 Web サイト.

³¹ 前掲23, ヘルシンキ市ソフィエマンネルヘイミン学校公式 Web サイト.

³² 前掲23, ヘルシンキ市ソフィエマンネルヘイミン学校公式 Web サイト.

³³ 前掲23, ヘルシンキ市ソフィエマンネルヘイミン学校公式 Web サイト.

³⁴ 前掲23, ヘルシンキ市ソフィエマンネルヘイミン学校公式 Web サイト.

³⁵ 前掲23, ヘルシンキ市ソフィエマンネルヘイミン学校公式 Web サイト.

